

## 甲南大学の学部留学生

甲南大学ではどんな学部正規留学生たちが勉強しているのでしょうか。

そこで、学部正規留学生たちに大学に入ってから生活について感想文を書いてもらいました（2021年秋執筆）。まだあとまだ書いてもらっていませんが、フロンティアサイエンス学部にも学生が3名います。

今後、学生への教育をいろいろなかたちで紹介しますので、たまにはご覧ください。

### 2018年4月入学の学生

(1) インドネシア共和国の南スマトラ島、パレンバンという街から来たグレイスです。甲南大学の文学部本語日本文学科に所属しています。私は、学部留学生の一期生の一人で、同じ文学部には留学生の仲間はいませんが、なんとなくやっていけてます。

私は元々、[言葉足らずというか、言葉選びが苦手というか、勘違いされやすいと今でも思っています。そのためか、言葉のずれやニュアンスにはとても興味があって、卒業論文では比較言語の研究をしています。実際はそれほど堅い感じでは研究してませんが、これもなかなか楽しいです。大学や専門学校は好きなことに冒頭できるところで、これから好きになるものを探す場所でもあるので、たくさんチャレンジしたらいと思います。苦手と思っている分野ももしかしたら自分に合うかもしれませんし、興味を持つことになるかもしれませんよ。甲南大学の先生方も一所懸命、学生たちの興味を惹くような授業をしてくれるので、分からないことがあったら、授業後とかで質問すると丁寧に説明してくれます。(JOHN KARLY LIVIA GRACE : 文学部日本語日本文学科)

(2) 大学に入って四年、夏から秋になり、ますます大学に入ったばかりの頃のことを思い出す。第一期の留学生として、キャンパスに初めて足を踏み込んだときは、正直すごく緊張はしていたが、踏み込んだ瞬間からなんだかほっと安心するようになった。岡本キャンパスの暖かく明るい雰囲気、私はこのような魅力を感じている。

今の私は、経済学と心理学に関心を持ち、臨床心理の専門家になるために日々勉強に励んでいる。将来、もいつか日本で外国人クライアントにでも対応できるクリニックを開く夢が実現できそうになった時には、きっと甲南大学の先生の方々のご指導・ご鞭撻のおかげだと思えるに違いないだろう。

いま思い出すと、甲南大学で過ごした四年間は、自分の人生を変えた四年間だといっても過言ではない。私はここで自分の興味関心を見つけ、大切にしたい友人達とも出会えることができたので、ここから自分の夢に向かって突き進んでいくことができるだろう。(李汇岍: 経済学部経済学科)

(3) 甲南大学のマネジメント創造学部(CUBE)に入ろうと思った理由は、異文化と経営の領域について専門的に学ぶことでした。実際にCUBEに入ると分かったのですが、外国の先生がたくさんいますので留学の話が聞けたり英語の勉強のアドバイスをもらったりするといった交流をする機会が多くて、日本国内なのに他の国の大学の雰囲気を体験することができます。少人数の授業なので、すぐに周りの人と仲良くなりやすいし、チームワーク重視型の授業がたくさんあって、学術だけではなく学生が中心になって調査研究をする成果のプレゼンテーションも多いです。

キャンパスは西宮北口にあり、そこは買い物も便利でレストランや映画館もあって学生生活が楽しめます。大阪からでも近いので私は大阪から通っています。私は就職の都合で中国に帰りますが、この4年間の大学生活は私の人生の大事な思い出や経験になるでしょう。(施趙勇: マネジメント創造学部マネジメント創造学科)

## 2019年4月入学の学生

(1) 最初、大学に入った時、母国の環境と違って勉強や友達づくり、生活などに不安を持っていて、それら乗り越えられるかと心配しました。でも、大学に入る前から、留学生を支援する先生が書類の作成やビザ更新、時間割の立て方などでいろいろ手伝ってくれました。また、学校に入ってから、学科の指導主任の先生が学生の勉強の進捗状況を見てくれたので、勉強などについて相談しやすい環境だと思います。

学習計画を立てるときに最も重要なカリキュラムは学生の状況に合わせて内容が毎年変わります。一年次に共通科目が多く、必須になっている科目がほとんどでしたが、そのような科目を通して他学部の友達や知り合いを増やす機会になりました。それに加えて、部活やサークルでも同学科の先輩と知り合ったという経験もできました。

二年次は専門科目がだんだん中心になって、本格的な実験も始まったので、勉強が生活の中心でした。実験のような科目は次の実験の内容と関連していて、実際に手を動かしながら講義で勉強したことを生かす科目になっています。一人の実験とグループの実験があるので、自力で実験を終わらせるという責任を持ち、グループで意見交換をしながら実験する楽しさなどを感じました。三年次は一年次から学習したことを復習しながらも応用的な内容が多く、化学のおもしろさを感じられる時期だと思います。また、この時に学業のことを考えながら、四年次の研究室の選択を絞っていく必要があります。奨励金の情報が常に来ていたので、それらにチャレンジすることができます。

(Jeffy：理工学部機能分子化学科)

(2) こんにちは、知能情報学部三回生のリクです。今まで甲南大学に過ごした学生生活について話したいと思います。わたしは第二期の正式留学生として甲南大学に入学しました。入学した時点で、大学の留学生の数はまだ少なかったため、留学生がいっぱいいる大学と比べて、同じ国の出身の留学生同士での母語コミュニケーションより、日本語でクラスメイトと会話することのほうが多いです。そのおかげで、自分の日本語能力が鍛えられました。

しかし、2019年から始まった「新型コロナウイルス」の流行により、2年目からは大学に登校できなくなりました。今までも授業の半分以上はオンラインでやっています。大学からもらった支援金を使って、デスクトップパソコンを一台購入しました。それを使っていろいろなプログラミングの学習ができています。今では研究室に配属され、自分の進路を考える時になっています。

個人的には、入学した時から、大学院に進学する目標を立てました。最近も入試のために、TOEICの学習を日々進めています。大学生活の残り時間が少ないですが、きっちりと充実した毎日を送りたいと考えております。

(陸鳴宇：知能情報学部知能情報学科)

## 2020年4月入学の学生

(1) 知能情報学部2回生の王哲靚(ワンゼリヤン)と申します。中国の瀋陽から来ました。2018年3月日本に来て、日本語学校を卒業して甲南大に入学しました。高校の時は文系でしたが、プログラミングに興味があったので、理系の学部を選びました。将来は大学院でIoTについて研究し、日本で就職したいと思っています。

暇な時はゲームをしたり、動画を見たりしています。コロナ禍で外出自粛の間は「あつまれ どうぶつの森」とジブリの映画で気晴らししていました。

また、自然も大好きで、世界を旅するのが人生一つの夢です。今芦屋の海側の寮に住んでいて、ほぼ毎日海を満喫しています。そして、旅行の貯金をするためにも、阪急三宮にあるオシャレな飲食店でアルバイトをしています。偶然会ったら、ぜひ声をかけてください！これからもよろしくお祈りします！

(王哲靚：知能情報学部知能情報学科)

(2) 私は中国の大連から来た韓子明です。専攻は物理です。大学の物理の授業はすごく難しいと感じました。必修の力学や電磁気学を学ぶことだけでなく、物理に関する分野の基礎的な知識も身につけることが必要です。甲南大学の理工学部は少人数教育という特長があって、7号館に学習教室が設置されています。

私は難しい課題にぶつかったとき、その教室の先生から手厚い指導をしてもらいました。物理の勉強は難しいですが、異なる量子力学の世界の理論に興味があります。将来は実験をする中で未知の量子世界を探索するのもおもしろいなどと思います。

(韓子明:理工学部物理学科)

(3) 私は丁咨翔と申します、2001年山東で生まれ、今年20歳です。今甲南大学の理工学部にも所属しています。日本人の友達はたくさんできました。彼らはとても親切で、よく課題の解き方を教えてくれます。甲南大学は気楽に自由に過ごすことのできるiCommonsという建物があります。キャンパスの規模がちよっと小さいので、非常事態宣言が解除された時は人が密集していてとても賑やかになりました。友達を作ったり、活動したりするのも難しいことではありません。私は人間関係があまり得意ではないので、部活に参加しませんでした。友達は何人かできました。

私の性格は好奇心が強くていろいろなことを体験してみたいです。将来の夢はIT会社のメーカーで働くことです。いつかは自分の研究が会社の経営に役に立ち、情報化社会に貢献できるような仕事をしてみたいと思っています。それは単に出世したいとか、お金をもうけたいということではなく、自分の能力で人や物やお金を動かしたいという意味です。それにはまず深く研究して学生として成長することが必要です。その上で、一人の人間として高い見聞を持った人物にならなくてはなりません。そのためには、日々をしっかりと勉強しながら、大切に生きていこうと思っています。

(丁咨翔:理工学部物理学科)

(4) 甲南大学の学生生活が一年半になりました。キャンパスが他の大学よりコンパクトなため色々な学部の人とすぐに親しくなれます。そして、総合大学としては中規模なため中国の大学と比べて思ったより学生が少ないので、たくさんの友人ができるのが良かったと思います。私は経営学部の学生で、2年生後期からのゼミが始まり、経営学、商学、会計学のそれぞれの分野に特化したゼミや経営史など幅広く学ぶことができるから、自分の好きなように組み合わせるのが好きです。本当の少人数教育から、先生は一人一人に手厚くサポートしてくれるのでとても助かります。

最寄り駅「摂津本山駅」と「岡本駅」から徒歩15分で、少し坂がありますがコンビニやスーパー、またお店やカフェ、居酒屋が集まっています。サークルもたくさんあり、選ぶのが難しいくらいです。イベントも充実していてとても楽しいです。ところで、経営学部は神戸を表すような上品な学科だと思います。

[https://www.minkou.jp/university/school/review/20584/1735/rd\\_603681/](https://www.minkou.jp/university/school/review/20584/1735/rd_603681/)

(趙正宇:経営学部経営学科)

(5) 将来マーケティングや市場開発に関わる仕事をするため、経営学部を選びました。2年から経営学に関するゼミに入り、グループワークで課題を研究し、理論と実践から知識を身につけます。専門知識以外にも、「国際理解」や「日本文化」などの授業で視野を広げ、多角度から問題を考えられ、面白いと思います。また、経営学の知識に限らず、簿記二級を目指して頑張っていきたいです。

大学四年の生活を豊かにしたいと考え、一年の時に柔道部のマネージャーになりました。コロナウイルスの影響を受け、部活での活動はあまりしていませんが、今は部員の行動記録と月に一回くらいのミーティングに参加しています。これからもたくさんの部活イベントを期待しています。大学に入ったこの一年間、生活上であっ

ても、学業上であっても、すべての悩みを相談することができています。

大学は神戸にありますが、一人で尼崎市に住んでいて、大阪に行くのも大学に行くのも交通が便利です。将来は日本で経営職をするために、語学力や人間関係との協調性の能力を養いたいと思います。

(李一淳:経営学部経営学科)

(6) 私は甲南大学二年生の留学生です。2019年に来日して、その次の年に甲南大学に合格しました。当時東京の杉並区に住んでいた時と比べ、あまり不便とかは感じませんでした。寧ろ近所が更に静かになっていると思います。「東京以外は田舎」言われたことがあります、とてもそうは思われなほど閑静な住宅街と感じています。週末に時々渦森台という町に行きます。六甲山の山頂までは行っていませんが、あそこからの景色を山路を歩く末に見るのも一興だと思います。コロナ禍であまり学校での授業は受けていなかったですが、校庭はガーデン的な雰囲気があると同時に教室内はあらゆる設備が揃っています。私はコロナが収まったらこのような校舎で毎日授業を受けるのをとても期待しています。

住吉川を沿って海の方へ行くところの人工島があります。そこにも甲南大学のスポーツグラウンドがあります。シャトルバスに乗っても自分で住吉駅から六甲ライナーに乗ってもそこに辿り着けます。瀬戸内海の海風を浴びながらの運動は素晴らしいと思います。

(孫書懷:経営学部経営学科)

## 2021年4月入学の学生

(1) 私がCUBEを選んだ理由は、グローバルな視点で物事を考え、誰も気づかなかったような課題に気づき、それを解決するという授業体系に魅力を感じたからです。入学後の授業では、グループワークで課題に取り組んだり、英語の授業で同級生たちと英会話をしたりすることで、コミュニケーション能力が上達しました。フィールドワークでは、社会の課題を見つけ、その解決法を研究して発表します。そうすることで、ロジカルシンキング能力が身につきました。

甲南大学では学習だけではなく、運動にも力を入れている大学です。なので、様々な部活があります。私は優しい先輩たちに惹かれ、チアリーディング部に入部しました。コロナの影響で、入部直後からZOOM練習になりましたが、先輩たちに丁寧に教えていただき、楽しい時間を過ごしていました。練習が大変な時もありましたが、他学部の友人をたくさん作ることができ、充実した大学生活を送っています。私は、将来、アパレル企業に就職します。そのために、甲南大学でできるだけ多くのことを学びます。

(シュエイー・ウィン:マネジメント創造学部マネジメント創造学科)

(2) 甲南大学は、私にとって夢を叶えるための近い道ですし、精神的に強い人になるための訓練所でもあります。甲南大学では自分の潜力を掘り出し、先生たちの指導に従って、自分の弱点を改善できます。そして、学校で学んだ専門知識を活用し、将来、自分が社会に貢献できる人材になれると信じています。

(祖力亜爾・胡拉木:経済学部経済学科)

(3) 私は文学部の学生ですが、前期の学習で、読書の方向性と目標が明確になりました。あるときまでは本の名前が有名だからという理由だけで作品を読んでいました。時には面白いのもあったけど、途中からただ自分の好きなジャンルの本だけ、例えば谷崎潤一郎、江戸川乱歩などの本を読んでいたのですが、作品の内容が理解できなかった、得る物はほとんどなく、時には自分の迷いと空虚感が残りました。しかし、文学概論を学んでからは、どの本が自分に必要な本なのかが分かるようになりました。自分に有益な本を選んで、各歴史段階における文学理論の相互関係と発展の基本的な法則を理解するのに役立ちました。歴史的な枠組み

を構築することで、その中で様々な流派や文学的な見方、考え方を知ることができました。そして、文論思想を参照しながら当時の文学や文化を理解すれば、文学的な捉え方ができます。

甲南大学の先生は丁寧で、時間を十分に利用して、知識に関する説明をととても分かりやすく整理していて、重要な点と困難な点を明確に区別しながら細部までよく練られた授業資料を作成してくれたので、それを頼りに、先生の考え方に付いていくことができました。授業後には質問にも丁寧に答えていただき、親切感が感じられました。

(劉錦翌:文学部日本語日本文学科)

(4) 甲南大学に入学して、私の生活は大きく変わりました。私は甲南大学の近くに引っ越したので、毎日学校まで歩いて10分しかかからなくて、行きたい時はいつでも好きな時に家から学校まで行って勉強したり図書館で本を借りたりできるから、学校での勉強の効率が上がりました。また疲れた時はすぐに家に帰って休むこともできます。

近いこともさることながら、その環境にも魅力を感じています。大学への通学路は基本的にはだいたい商業地から離れた住宅地で、いつもとても穏やかな気持ちで通れます。また緑が多く、景色的にもとてもリラックスできます。これらのおかげで、私はより能率的に勉強することができ、同時にリラックスすることもできています。

(何承遠:知能情報学部知能情報学科)

(5) 私は中国から来た留学生です。日本のアニメやゲームをきっかけに日本へ留学することに決めました。来日した当初は京都に住んでいましたが、今は大学の所在地である神戸で学生生活を送っています。神戸は京都より夏が涼しいため、私は大変気に入っています。

気分転換をしたい時は、神戸のハーバーランドへ行って、海風を浴びることができるのも素晴らしいと思います。甲南大学は駅に近いため、不便なく通うことができます。

校内施設が充実しているため、授業がある日は一日中構内でたいていのことができます。甲南大学の知っている先生方も親切な方ばかりですので、もし私に困ったことがあれば、気楽に相談に乗ってくれます。率直に言って甲南大学はいい大学だと思うので、もし機会があれば、ぜひ甲南大学を見に来てみてください！

(劉瀟桐:理工学部生物学科)